

工事関係者ら集い安全大会 復旧・復興事業の無事故誓う

「山田町震災復旧復興事業安全大会」が3月26日、町中央公民館で開かれ、各地区で進む土地区画整理や防災集団移転工事に携わる関係者ら約300人が出席して無事故・無災害の誓いを立てました。佐藤町長らのあいさつなどの後、澤田秀幸・宮古労働基準監督署長が安全管理や防災防止策について講演。公募した安全標語の優秀作の表彰も行われ＝写真、最優秀賞に山田町震災復興事業共同企業体の大川晋一さんによる「あせらず ムリせず 一歩ずつ 安全作業で目指せ復興」が選ばれました。



県仲介で町に水上バイク寄贈 海洋スポーツや人命救助に

被災地のニーズと民間団体・企業の支援を結ぶ県の「いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクト」の仲介で、川崎重工業から水上バイク1台が町に寄贈されました。海洋スポーツの振興や事故・災害時の人命救助などに活用されます。総排気量1,500ccの3人乗り。3月26日に町役場で行われた贈呈式で佐藤町長は「海辺の被災地である山田にマッチした支援」と感謝。川崎重工業の中林志郎・総務本部長は、阪神・淡路大震災の被災地、神戸市に本社がある同社として一日も早い山田町の復興を願いました。

「歩道岩手の会」短歌大会 船越の中村さんが最高賞受賞

4月12日に開かれた短歌結社「歩道岩手の会」の第24回短歌大会で、船越在住の中村トキさん(94)の作品が最高賞の天賞に輝きました。受賞作は「藍ふかき海をへだてて雪晴れし十二神山輝きて見ゆ」。大雪の降った2月、家族と暮らす浦の浜仮設住宅の付近で見た、深い色の山田湾と冠雪した十二神山との対比の美しさを詠みました。中村さんは3年前の津波で田の浜地区の自宅が全壊。「心に浮かんだものを普通の言葉で表現している。長生きして新築される家のことも歌にしてみたい」と意欲的です。



道の駅で交通安全啓発活動 交通事故ゼロ願い呼びかけ

4月7日、「道の駅やまだ」において交通安全街頭啓発活動が行われました。これは、4月6日から15日に実施された春の全国交通安全運動の一環として行われたもので、町交通指導隊や町交通安全母の会会員など45人が参加。参加者は、交通安全を呼びかけるチラシやティッシューパーなどをドライバーに手渡し、「スピードを控えて安全運転をお願いします」「後部座席の方もシートベルトをしましょう」などと声を掛けながら、交通事故防止を訴えていました。



町のわだい

今月の題字 松崎 寧緒ちゃん（豊間根小6年）



春の色を満喫しに大勢が来場 さくらまつりを盛大に開催

4月15日から25日にかけて、船越家族旅行村「さくらまつり」が開催されました。これは、見頃になる同村の桜を楽しんでもらおうと、例年行われているものです。20日には「桜と音楽の集い」が催され、「さくら並木ネットワーク」の協力で行われた桜の植樹には、町内外から約200人が参加。急斜面に悪戦苦闘しながらも、海を見下ろす場所に1本1本丁寧に植えていました。また、ステージではキッズダンスをはじめ、本町出身の漁師シンガー・佐々木友彦さんのバンドや大槌町出身の歌手・臼澤みさきさんの歌の披露が行われ、約800人の観客を魅了しました。



スキーの阿部選手が役場訪問 「町民の応援で入賞できた」

3月にロシア・ソチで開かれた冬季パラリンピックに初出場し、クロスカントリースキーの競技で8位入賞を果たすなど健闘した本町出身の阿部友里香さん(18)。帰国後、報告のために町役場を訪ね、「予想以上に地元選手が強かったが、目標だったクラシカル立位15*で入賞できて満足。町民の皆さんの応援のおかげで結果が残せました」などと感謝の気持ちを伝えました。阿部さんは4月から大東文化大に進学してスキー部に所属。次回の韓国・平昌大会に向けて「大学4年で迎えることになるので、練習を積んでレベルアップしたい」と抱負を述べました。



佐藤町長と山田中学時代の恩師・佐々木毅教育長に囲まれる阿部さん